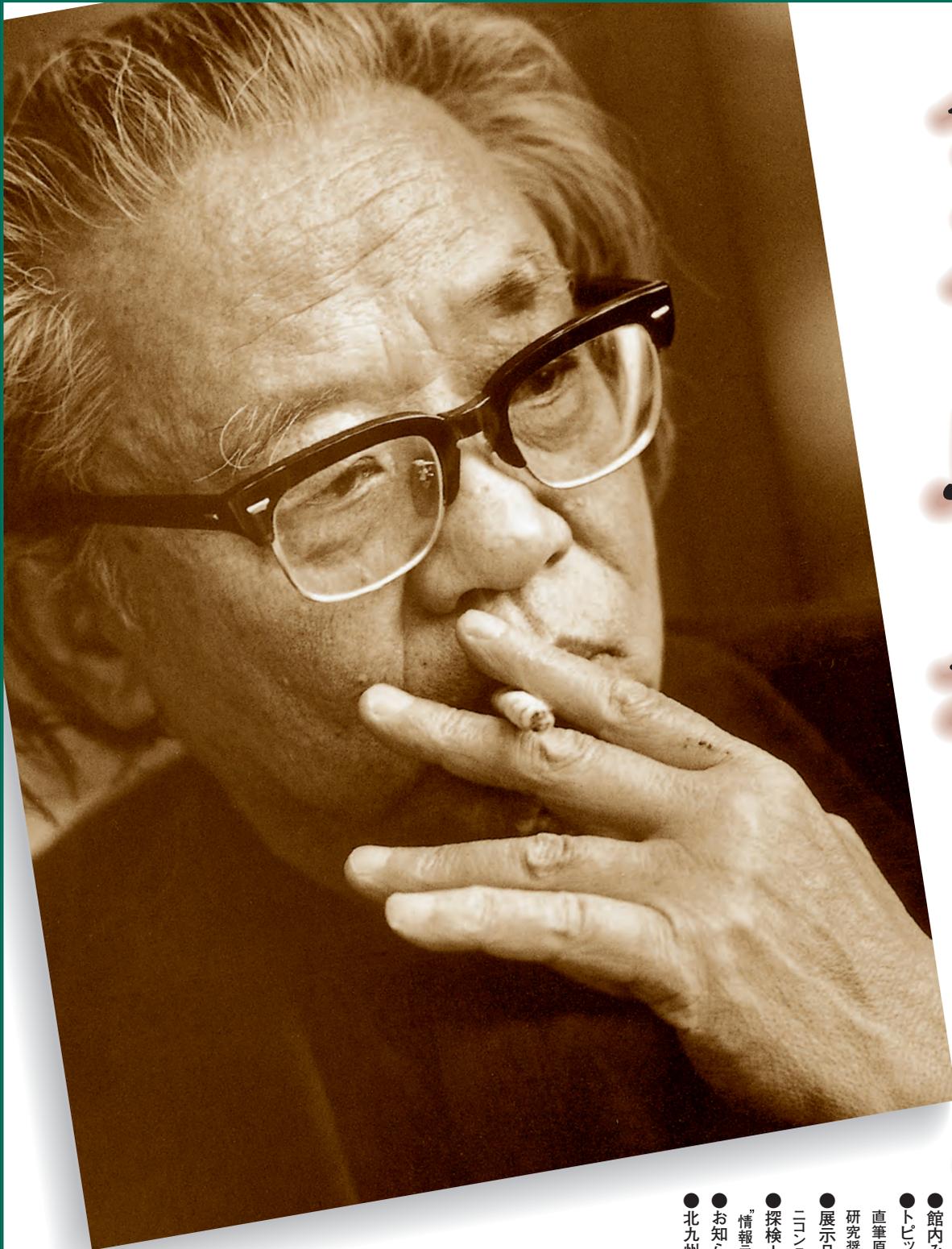


松本清張記念館

◆館報◆

1999
第1号



全力で駆け抜けた巨人

目次

- 創刊によせて
館長 藤井康栄…………… 2
- 特別寄稿
運営委員長 小林安司…………… 3
- 運営委員会…………… 3
- 写真でみるこの一年…………… 4
- 館内みどころ…………… 5
- トピックス…………… 6
- 直筆原稿、清張記念館へ
研究奨励事業募集…………… 7
- 展示品紹介…………… 7
- インタビュー
● 探検！清張記念館
情報ライブラリーの巻…………… 8
- お知らせ…………… 8
- 北九州文学マップ…………… 8

1999.3

創刊号

創刊によせて

館長 藤井 康栄



松本清張の七回忌にあたる平成十年八月四日、この松本清張記念館はオープンいたしました。間もなく九ヶ月を迎えようとしています。この間、十三万人を超える方々にご来館いただき、貴重なご意見を多数頂戴しました。ここにあらためて御礼申し上げます。

当館は、松本ナヲ夫人の全面的な協力により、書斎・書庫・応接室をそのまま再現することができました。かつて作家の戦場であったこれらの仕事場を一般展示棟と切り離し、静謐な空間として感じ取っていただけのように、独立した棟にしています。約三万冊に及ぶ蔵書を当時のままに配置し、幾層にも伸びている書庫は、清張文学の深淵を伝えるに十分な迫力を持って迫ってきます。

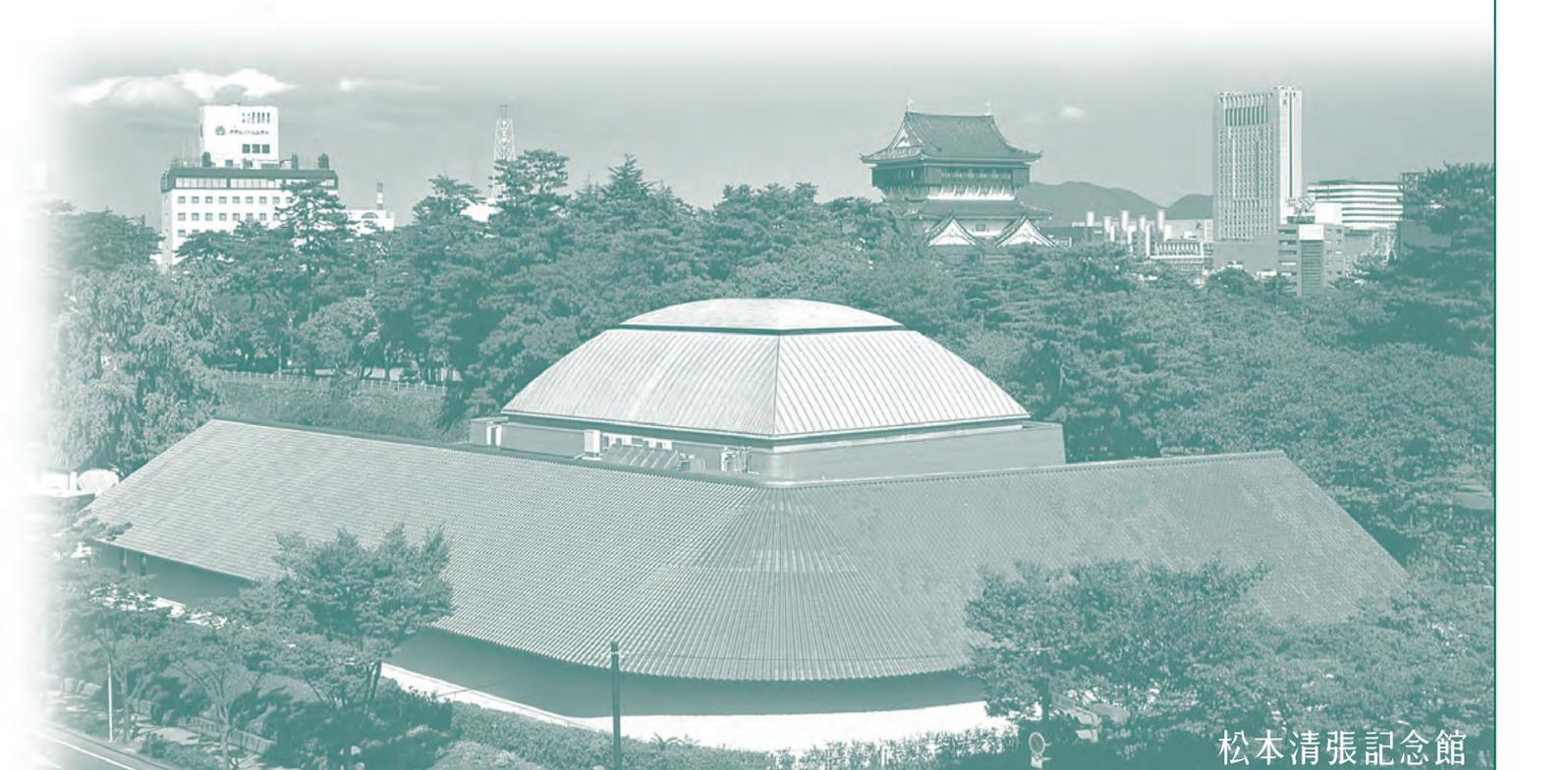
清張先生の膨大な蔵書・資料は、当初か

らただの展示物とするだけでなく、活用之道を考えておりました。今後は、歴史小説、現代小説、推理小説、現代史、古代史など広範囲にわたる松本清張の創作活動をこれらの資料を用いて検証し、遺された研究課題に取り組んでいく必要があると思っております。また、地元北九州市における新たな関係資料の発掘をはじめ、これからの情報収集活動も重要な課題です。全国の清張研究者とも交流しながら、質の高い情報を蓄積し、発信に努めるつもりです。

「生涯現役」と呼ぶにふさわしい作家、松本清張。時代に鋭敏で広い視野を持ち、常に前へ前へと仕事を展開していく一方で、関心ある主題への興味は途切れることがありませんでした。この姿勢はまさに「全力で駆け抜けた巨人」と言っても過言ではないでしょう。そのエネルギーを継承し、これからの若い人材を育て、支援する場として、記念館の活動にご期待ください。

ふじい やすえ

早稲田大学文学部卒業。平成7年まで文藝春秋編集委員(局長待遇)。文藝春秋の編集者として30年の長い間、清張氏とともに歩み、清張作品の企画・取材・編集にたずさわり、清張全集の出版も担当した。平成5年、清張記念館の建設決定時から、このプロジェクトに参画。基本構想、基本計画にかかわり、誘致建設計画委員、建設準備委員、資料収集委員を歴任。昭和9年東京生まれ。平成10年8月より「松本清張記念館」館長。



松本清張記念館

特別寄稿

館報創刊を祝して

運営委員長 小林 安司



こばやし やすし

東京大学文学部卒業。現在は北九州大学名誉教授、北九州森鷗外記念会会長。北九州市立中央図書館初代館長で、昭和50年の開館時に、清張より全著書の寄贈を受けた。松本清張記念館設立にあたり、誘致建設計画委員会をはじめ、各委員会会長を歴任。現在は運営委員会委員長を務める。明治43年小倉生まれ。

本市に「松本清張記念館」が藤井康栄館長のもとで晴れて開館を見たのは、昨年八月のことで早くも半年が経過した。

先に一〇万人目の入館者が岡山県玉野市の女性で、目標よりかなり早かったというのは、われわれ関係者にとって特にうれしい報道であった。

今、館の統計でみると、開館からこの一月末まで一七八日に入館者が一一四、一〇〇人、一日平均六一四人とあり、幸先よい本館の門出である。

さらにアンケートで見ると、性別で女性58%、男性42%と、住所では市内36%、県内26%、そして県外38%で、しかも南は沖縄、鹿児島から北は北海道、青森におよび、さらに「もう一度来たい」が88%の割合になっているのは特に注目されることである。こうした数字のほか、館の今迄の活動の

面についてみると、記念館固有の事業としての企画展、清張研究奨励制度の設置、研究誌の刊行準備、その他映像作品鑑賞会など、それぞれ注目される諸活動が既に一斉に開始されていることを知った。

こうした時、館の方でいよいよ館報を発行することになったのは順当な措置であったといえよう。この館報が官報的なものではなく、魅力ある館報の任務を果たしてくるであろうことを期待したい。

さて、この程第一二〇回の芥川賞が発表され、本市の八幡出身の京大学生平野啓一郎氏が市民に注目されたところで、わが松本清張氏が昭和二八年に「或る『小倉日記』」で受賞された当時が改めて想起されるが、あれから今年でもう四六年になる。今年六月はその「小倉日記」の森鷗外が小倉赴任満百年にもなる。

戦前の火野葦平さん、先年の村田喜代子さんら芥川賞、さらに直木賞などと文運豊かなわが北九州の地を思い、本館報の門出をひとしお祝福したい気持ちである。

(平成11年2月寄稿)

運営委員会

松本清張記念館は、清張氏の偉大な業績を称え、後世に継承することを目的として、同氏が生きた時代の全貌を体系的に展示紹介し、同氏に関する情報の発信と研究の拠点となる施設として設立されました。

その目的に沿った円滑な運営を図るために、学識経験者や地元関係者からなる運営委員会が設置されました。

委員長 小林 安司

北九州大学名誉教授・

北九州森鷗外記念会会長

委員 今村 元市 郷土史家

委員 安間 隆次 文芸評論家

委員 小野 昭治

(株)ケイプラン専務取締役

委員 神崎 大

北九州青年会議所理事長

委員 奥竹 繁

北九州市教育委員会文化部長

(敬称略)

記念館ができるまで

平成4年8月	4日、死去(享年82歳)
11月	松本家に記念館誘致建設を協力依頼
12月	誘致建設計画委員会の設置を発表
平成5年9月	シンポジウム
10月	「松本清張と北九州」開催
平成6年2月	誘致建設委員会・記念館基本構想中間答申
7月	誘致建設計画委員会・記念館基本構想最終答申
9月	記念館基本計画、基本設計に着手
平成8年7月	「松本清張展」開催
平成10年6月	竣工

8.4 松本清張記念館開館

松本清張の7回忌にあたる8月4日に、全国から多くの関係者をお招きして開館記念式典が行われました。「小倉の地に記念館が出来て大変嬉しい」と松本ナヲ夫人は喜びの挨拶をされました。



(読売新聞西部本社提供)

オープン日、開館時間は2時間半にもかかわらず、803人の入館者を記録



開館記念イベント

8.5 井上ひさし 講演会「松本清張の仕事」



講演前、館内にて



女性センター「ムーブ」にて

阿刀田高「松本清張と私」
吉村 昭「創作ノートから」

小倉市民会館にて



7.9

プライベート
文藝春秋講演会

8.9 シネマコンサート 映画「砂の器」上映と交響組曲「宿命」演奏会 小倉市民会館にて



川谷和也、羽田健太郎、熊谷弘
3氏のトーク



8.4 名取裕子 トーク&シネマ



清張原作の最後の作品となった「彩り河」の上映と主演の名取裕子さんのトーク
東京第一ホテルにて

館内みどころ

外観は小倉城の景観と調和した和風建築。
館内に入ると、長めに配置されたエントランスが
展示室への期待感を盛り上げます。

■常設展示室

当時のニュース映像を織り込んだ全長22mの『松本清張とその時代』パネルは圧巻です。ここでは『作品系統図』や『松本清張全仕事』の展示によってその多岐にわたる創作活動を紹介します。



古代史の謎解きを映像で楽しむ—
推理劇場『火の路』へ

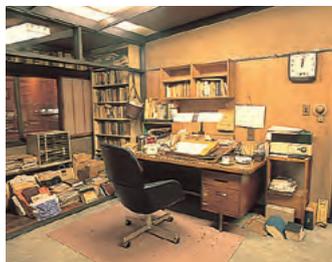
松本清張の世界

記念館のモニュメントである天平時代の寺院礎石と、清張著作700冊の表紙パネルが迎えてくれます。



■思索と創作の城

東京都杉並区の清張宅にある書斎や応接室、書庫などの『仕事の城』を再現。古代資料のコレクションルームや、8つに別れた書庫に並んだ約3万冊の膨大な蔵書は、清張の創作活動の源を感じさせます。家屋内部はビデオ映像で紹介。また、蔵書は地下1Fの情報ライブラリ「清張の書庫」で探索できます。



【書斎】
カーペットには煙草の灰の焦げ跡



【応接室】
時間を忘れて編集者と討論することも…

■地下1F

この階はフリーゾーン。展示室で清張世界を堪能した後は、ゆっくり余韻に浸りながら、こんどは「あなたが知りたい清張の姿」を探索できます。ミュージアムショップ、情報ライブラリ、読書室、企画展示室・映像ホール、喫茶「石の館」と何度でも足を運んでみたくなるスペースです。



【読書室】
全集をはじめ、清張作品や文芸雑誌を自由に手にとれる



【企画展示室・映像ホール】
清張原作のビデオ上映や企画展はここで

(学芸担当 篠原)

★それぞれのコーナーを詳しく紹介するシリーズ
「きよしとハルコの探検! 清張記念館」もお楽しみに!

12.21

松本ナヲ夫人、
清張研究にと
北九州市に
2,000万円寄付



このご厚意を受けて、研究奨励制度を創設

10月 ナヲ夫人、雑誌取材で来館



講談社「きものとヘア」取材
松本ナヲ夫人と市田ひろみ
さん、清張氏の思い出を語
る

(講談社提供)

12.26 入館者10万人突破!!

12.21
~
2.28

特別企画展

明治42年に生まれ、昭和28年に上京するまでの、44年間を過ごした小倉時代に焦点をあて、清張文学の源流を探る企画展を開催しました。

「ふるさと小倉 清張文学の羽搏き」



■地下1F企画展示室にて—



未発表原稿
「構想」及び「書簡」



デビュー作「西郷札」掲載誌と
自作のスクラップ

発見!

東京駅13番ホーム

4分間のトリック

「点と線」ほか直筆原稿、記念館へ

平成11年3月2日、松本清張の初期代表作の一つ、「点と線」ほかの直筆原稿が記念館に寄贈されました。原稿は、長く日本交通公社（JTB）出版事業局の保管庫に保管されてきました。昨年発見され、清張研究に役立ててもらいたいと、JTBから寄贈の申し出を受けたものです。

- 「点と線」(連載12回…「旅」昭和32年2月号、昭和33年1月号)
連載第1、第2、第5回分 63枚
- 「時間の習俗」(連載19回…「旅」昭和36年5月号、昭和37年11月号)
連載第12回を除く18回分 448枚
- エッセイ、紀行文 5点 137枚

合計648枚



「点と線」は国民的作家としての出発をきった清張の出世作であり、社会派推理小説という新しいジャンルを開拓した記念碑的作品でもあります。「時間の習俗」については和布刈神事など北九州市が描かれた作品であり、ほぼ全文が揃っています。また何より、当時の生原稿は作家の手許に残りにくく、所在不明のものが多い中、これほどまとまって多量に発見されるのはめずらしく、極めて貴重で資料価値の高いものです。

今後、日本交通公社様のご厚志を無駄にせぬよう、清張研究に役立てていきたいと考えています。(学芸担当 中川)

北九州市では、松本清張関係資料の収集を行っています。ゆかりの品をお持ちでしたら、松本清張記念館に情報をお寄せください。

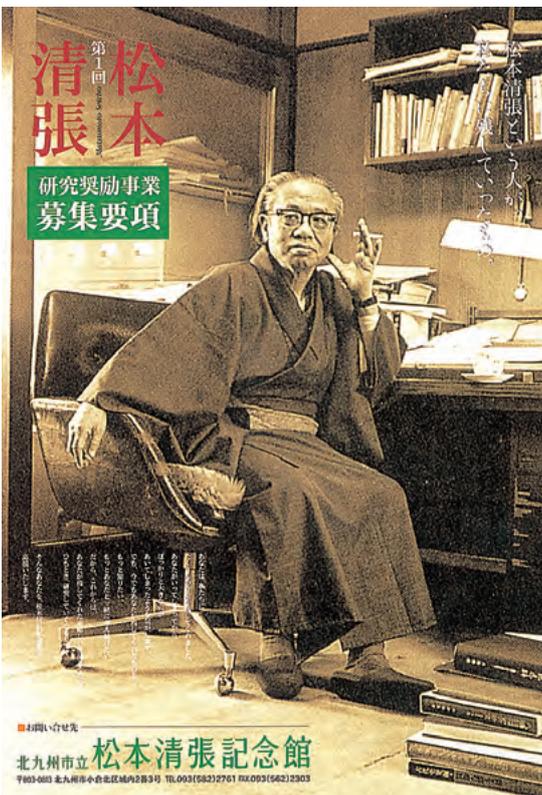
第1回

松本清張 研究奨励事業 募集

松本清張記念館では、昨年、松本ナヲ夫人のご厚意をいかし、松本清張研究奨励制度を創設いたしました。

募集要項

- 対象 ● 松本清張の作品や人物の研究、清張の精神を継承する活動で、これから行うもの。年齢、性別、国籍は問いません。個人または団体も可。ただし、未発表の企画に限ります。
- 内容 ● 最優秀者(団体)に200万円を上限とする研究奨励金を支給します。金額は企画内容を検討し、決定します。
- 応募規定 ● 今後取り組みたい調査・研究テーマ等の内容がわかる企画書、予算書など(様式は自由、ただし日本語)を平成10年12月21日～平成11年5月31日までに応募してください。(次年度は6月1日より翌年3月31日まで)
- 選考 ● 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。
- 発表 ● 審査終了後、審査結果を直接通知します(6月末頃)。なお、採用された企画は翌年の開館記念日までに実施成果を報告していただきます。
- お問い合わせ ● 松本清張記念館 TEL093-582-2761 担当 中川



お問い合せ先
北九州市立 松本清張記念館
〒803-0803 北九州市小倉北区城内2番9号 TEL.093(582)2761 FAX.093(582)2303

清張愛用の——ニコンF3



ちよつと変わったカメラが展示室にあります。

あたまたにマッチ箱くらいのものがくついているこのカメラは、ニコンF3を改造したものです。そしてマッチ箱のような部分は液晶です。

晩年、視力が落ちた清張は、愛用のカメラを使いやすくする良い工夫は無いかと考えました。昭和六十二年春、そのことが講談社写真部を通じて株式会社ニコン・カメラ営業部報道機材課に伝えられました。

ニコンF3のファインダーを覗くと、上部の液晶にシャッタースピード、マニュアル露出が表示されます。そのデータが清張には読みづらくなっていました。そこで、カメラの外部に液晶を取り付けて、見やすく表示することが考えられたのです。材料費を抑えるために、時計用の液晶を利用したり、様々な部品を代用したりと工夫し、ニコンでは、この時の経験を生かして、新機種を開発したということです。

意外と知られていないかもしれませんが、清張は無類のカメラ好きでした。まだわずかな給料で暮らしていた戦前、すでにライカを購入していたというから、本とカメラにはお金を惜しまなかったといえるでしょう。作家になつてからも、海外旅行には必ず二台以上を携帯し、カラーとモノクロを撮り分けました。その腕は、プロのカメラマンも認めるどころでした。写真家の林忠彦氏もその一人です。

「先生は見たものに感激し、そこでシャッターを切る。その上自分の内面的なものがその中に入っているのだから、こういった写真は強い。」(推理街道三十五年 松本清張展「図録」1985 朝日新聞社・西武美術館発行)

館には、清張のこうしたデザイナー感覚と技術の高さを示す写真や絵画などの資料が収められています。今後は、これらのものを企画展で紹介していく予定です。(学芸担当 林)



平成元年6月「草の径」取材
アイルランドにて

撮影 山田一仁

清張撮影の写真は、常設展示室でご覧いただけます。

老よしとハルコの探検! 清張記念館

“B1F 情報ライブラリ”の巻



ここをタッチ!

タッチパネル



きよし ねえ、あの作品、何の本に載ってるんだっけ。思い出せない〜。

ハルコ 清張作品は出版されているもので1,000点以上あるものね。短編だったら表紙にタイトルがのっていないこともあるし…。でも大丈夫! 地下1Fの情報ライブラリを使ってさがしてみよう。この装置は清張の全作品がだれでも簡単に検索できるの。画面の「清張全仕事」。ここを押すと検索の画面になって…。ところで、作品のタイトルは?

きよし えーっと、「てん…、…点…」あれ、忘れちゃったよー。

ハルコ しょうがないわねえ。

でもタイトルなら部分からでも調べられるの。「てん」と。

きよし おー!!「てん」がタイトルに含まれる作品がズラッと。あっ、これこれ、「ゼロの焦点」。新潮文庫かー。

ハルコ その本だったらミュージアムショップで売ってたわよ。ちなみに清張作品の品ぞろえなら日本一ですって。

きよし ひょっとしてキミ、ショップのまわし者?

タッチパネルでだれでも簡単に操作でき、作品の検索以外にも記念館の案内ほか、収蔵品の紹介や、「日本の黒い霧」・「昭和史発掘」の題材となった事件の解説が見られるスグレもの、情報ライブラリは地下1F、喫茶「石の館」前です。

お知らせ

記念館では、皆様のご要望にお応えして、松本清張原作映画のビデオ上映を行います。4月・5月の上映作品は次の通りです。

映画上映

4・5月スケジュール

ミュージアムショップから

清張著書と27種類のオリジナル・グッズをご用意しております。



4月

—親子の絆—

- A 「球形の荒野」
- B 「鬼 畜」

	11:00~	14:00~
4/11日	球形の荒野	鬼 畜
12日	鬼 畜	球形の荒野
13日	球形の荒野	鬼 畜
14日	鬼 畜	球形の荒野
15日	球形の荒野	鬼 畜
16日	鬼 畜	球形の荒野
17日	球形の荒野	鬼 畜
18日	鬼 畜	球形の荒野

5月

—思い出が犯人を締めつける—

- A 「砂の器」
- B 「天城越え」

	11:00~	14:00~
5/1日	砂の器	天城越え
2日	天城越え	砂の器
3日	砂の器	天城越え
4日	祝	砂の器
5日	祝	砂の器
6日	天城越え	砂の器
7日	砂の器	天城越え
8日	天城越え	砂の器
9日	砂の器	天城越え



※上の日程以外の日も、可能な限り上映を行います。上映時間は、4月・5月いずれも右の通りです。

	11:00~	14:00~
奇数日	A	B
偶数日	B	A

詳しい内容については、館内にて予告チラシを配布します。

グッズ売上ランキング

- 1位 テレカ(似顔絵) ¥1,200
- 2位 テレカ(ポスター柄) ¥1,000
- 3位 ポストカード(6枚セット) ¥500
- 4位 一筆せん・キーホルダー・湯飲み・手拭い

男女問わず売れているのが「湯飲み」です。ちなみに女性人気No.1は「ポストカード6枚セット」です。先日、東京から来られた清張の熱烈なファンの方が、ショップにある全ての商品を購入されたことが特に印象に残っています。



資料提供のお願い

松本清張直筆の手紙・書画・写真などをお持ちの方は、記念館までお知らせください。

編集担当 大西政寛 篠原礼 林暁子

◆編集後記◆
何もかも初めてづくしのこの1年を締めくり、館報第1号がようやく産声をあげました。楽しんでご覧いただけましたでしょうか。
皆さんの声をお寄せください。

文学カレンダー
4月4日 岩下俊作忌(八幡東区) 5月5日 林芙美子生誕祭(門司区)
17日 劉寒吉忌(小倉北区) 6月19日 森鷗外を偲ぶ会(小倉北区)

火野葦平・『河伯洞』

1月24日より一般公開中



火野葦平旧居「河伯洞」
昭和15年、葦平の出征中に父・金五郎が兵隊三部作の印税で建てたと伝えられる。市指定文化財。

火野葦平資料館(若松市民会館内)
河伯洞書齋を再現展示しているほか「人間・葦平」と作品を紹介。資料点数約2万点。

北九州文学マップ

「花と龍」の舞台となった洞海湾、文学碑、河伯洞、資料館など、葦平ゆかりの地を巡る文学散歩コースとして最適。

「麦と兵隊」などで知られる国民的作家・火野葦平(一九〇六〜六〇)は、明治39年石炭産業華やかなりし頃の若松に生まれた。文業盛んな時も東京と若松を飛行機で往復、ふるさとと河童をこよなく愛した葦平の旧居「河伯洞」は、「花と龍」など数多くの名作を生み出し、また自らの命を絶つた場所。「九州文学」の同人たちが常に集まり、松本清張も原稿を見せに訪ねたという。(藤澤)

編集・発行 松本清張記念館

〒803-0813
北九州市小倉北区城内2番3号
TEL 093(582)2761
FAX 093(562)2303
制作 (有)エディックス
表紙写真 文藝春秋提供



イラスト:山藤 草二

- 開館時間 午前9:30~午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日~12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)
小学生/200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス J R:小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
バス:小倉北警察署前/NHK前下車
車:北九州都市高速、大手町ランプより5分

